

5. 予算および主要課題

歳 出

事業名	平成16年度予算(千円)
運営費	21,989
養鱒事業費	59,882
調査指導費	3,946
(森の機能を活かした溪流漁場の利用と改善のための技術開発試験費)	
(マス類遺伝子資源の保全及び利用に関する研究費)	
(地域環境保全型養殖技術の開発研究費)	
職員費	
計	85,817

歳 入

事業名	平成16年度予算(円)	平成16年度決算(円)
使用量及び手数料	15,485,000	15,565,080
財産収入	42,255,000	43,459,246
雑入		8
計	57,740,000	59,024,334

平成16年度主要事業一覧表

事業名	事業概要
森の機能を活かした溪流漁場の利用と改善のための技術開発試験	河川の特性と遊漁者のニーズに応じた遊魚振興による中山間地域の活性化を図る。 1. 河川漁場環境の特性把握 2. 魚類と河畔林の関係調査 イワナ産卵場調査
マス類遺伝子資源の保全及び利用に関する研究	遺伝的多様性の保全に対する社会的関心が高まり、放流事業にも多様性への配慮が求められている。また養殖業ではマス類の持つ優良遺伝子の利用を目指した育種研究の進展が望まれている。 1. 遺伝的多様性保全技術の開発 2. 養殖魚のバイオテク応用集団育種システムの開発
在来マスの養殖技術の開発	在来マスの種苗生産技術の改良による特徴ある種苗の安定供給およびビワマスの栽培漁業の効率化を進めるための基礎作りを行うとともに、養魚に伴う薬剤の環境への負荷を軽減し地域の特徴あるこだわり養殖を目指す。 1. ビワマスの栽培漁業効率化研究 2. ビワマス養殖化研究 3. 地域環境保全型養殖技術の開発(ミズカビ防止対策研究)
研修事業	環境立地条件と「さかな学習館」を利用し、青少年や一般社会人を対象とした研修を通じて知識の向上を図るとともに理科教育や社会教育の場を提供する。
養鱒事業	ニジマス等の種卵・種苗等の生産供給事業を委託し、内水面の円滑な推進を図る。 供給目標：種卵 3,500 千粒 種苗 1,400 千尾 成魚 17,200 Kg
養鱒場一般観覧業務(運営費)	入場料徴収・清掃業務の委託等により、円滑な一般観覧、施設維持管理を図る。